

スペイン人は
なぜ小さいのに
サッカーが強いのか

日本がワールドカップで勝つためのヒント



村松尚登

FCバルセロナスクールコーチ

著者略歴

村松尚登 (むらまつ・なおと)

1973年生まれ、千葉県出身。千葉県立八千代高校、筑波大学体育専門学群卒業。同大サッカー部OB。1996年、日本サッカーが強くなるためのヒントを求めてスペインに渡る。その後、バルセロナを拠点に8クラブのユース年代以下の指導に携わり、2004年10月にはスペインサッカー協会が発行する上級コーチングライセンスを取得した。2005年、スペインサッカー協会主催の「テクニカルディレクター養成コース」を受講。2006年からFCバルセロナのジュニアスクールで12歳以下の子どもたちを指導している。ブログ (<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/naoto/>) では、指導の日々や戦術的ピリオダイゼーション理論に基づく指導論などをつづっている。2009年9月より、FCバルセロナスクール福岡校 (FCBEscola Fukuoka) のコーチに就任。著書に『FCバルセロナスクールの現役コーチが教える バルサ流トレーニングメソッド』(アスペクト)、『テクニクはあるが、「サッカー」が下手な日本人』(ランダムハウス講談社)、『スペイン代表「美しく勝つ」サッカーのすべて』(河出書房新社)がある。

※本書の印税の一部はユニセフに寄付されます。

ソフトバンク新書 127

スペイン人はなぜ小さいのにサッカーが強いのか 日本がワールドカップで勝つためのヒント

2010年3月25日 初版第1刷発行

2010年7月29日 初版第5刷発行

著者：むらまつなおと
村松尚登

著者エージェント：アップルシード・エージェンシー

発行者：新田光敏

発行所：ソフトバンク クリエイティブ株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-13-13

電話：03-5549-1201 (営業部)

装幀：ブックウォール

編集協力：細江克弥 (S.C.Editorial)

Photo：AP/アフロ

組版：アーティザンカンパニー株式会社

印刷・製本：図書印刷株式会社

落丁本、乱丁本は小社営業部にてお取り替えいたします。

本書の内容に関するご質問等は、小社学芸書籍編集部まで書面にてお願いいたします。

© Naoto Muramatsu 2010 Printed in Japan

ISBN 978-4-7973-5237-5

スペイン人はなぜ小さいのにサッカーが強いのか
日本がワールドカップで勝つためのヒント

村松尚登

ソフトバンク新書

127



はじめに

2008年に開催されたユーロ2008（欧州選手権）でのスペイン代表の優勝、そして、2009年のFCバルセロナの6冠（リーガ・エスパニョーラ、チャンピオンズリーグ、コパ・デル・レイ、スーパー・コパ・エスパニョーラ、ヨーロッパスーパーカップ、クラブワールドカップ）という偉業はサッカー界に大きな衝撃を与えました。国際Aマッチで35試合連続無敗記録を打ち立てたスペイン代表と、圧倒的な強さで世界一の栄冠を手にしたFCバルセロナ。両者に共通する「美しく勝つサッカー」は、現役監督や選手を含む数多くの識者から高く評価され、世界中のファンを魅了してやみません。

周知のとおり、サッカーは時間の経過とともに多様な変化を遂げています。ある時代にはブラジルを中心とする南米諸国の個人技を主体としたサッカーが全盛を極め、またある時代にはオランダが実践した組織的かつ攻撃的な「トータルフットボール」が世界中に強

烈なインパクトを残しました。華麗なパス回しで相手を翻弄するフランスの「シャンパンサッカー」、組織的な守備で1-0の美学を確立したイタリアの「カテナチオ」、そして、パワフルで堅実な旧西ドイツのスタイルが隆盛を極めた時代も、そう遠くはない過去の記憶としてサッカーファンの脳裏に焼きついています。

近年においても、サッカーは変化と進化を繰り返しています。そこにはルールの改正や試合数の増加など、サッカーを取り巻く環境の変化が大きな影響を及ぼしていることは言うまでもありません。しかし、人々がサッカーに求めるものは今も昔も同じ。ピッチから伝わる《観る楽しさ》と、試合終了と同時に訪れる《勝利の喜び》。スペイン流の「美しく勝つサッカー」は、サッカーを愛する人々の普遍的なニーズを満たし、時代の変化に応じた新たなトレンドとして、確固たる地位を築こうとしているのかもしれない。

1996年、スペインのサッカーに魅了された私は、「日本のサッカーを強くするため」のヒント」を求めて単身スペインへと渡りました。そして、指導者として育成の現場に立ち、歴史や文化を肌で感じ、一流選手を次々に輩出するFCバルセロナの一員としてその

完成されたトレーニングシステムを実体験するうちに、日本のサッカーを強くするための数多くのヒントを得ることができました。

私がスペインに「ヒント」を求めた理由の一つは、スペインと日本がともに抱え、サッカー界では一般的にネガティブな意味を持つある共通点にありました。すでに世界のトップレベルに位置するスペインと、まだ世界のサッカーシーンで特筆すべき実績を残していない日本との共通点とは何か――。その答えは、両者の身体的な特徴を分析することで浮き彫りになります。

2006年のワールドカップ・ドイツ大会を制したイタリア代表の平均身長は182・8センチ、2009年のコンフェデレーションズカップを制したブラジル代表は182・2センチと、いずれも180センチを超える非常に大柄なチームでした。ところが、ユーロ2008を制したスペイン代表は178・9センチと、身長をものさしとして《体格差》を測るとイタリアやブラジルには遠く及びません。必然的に大柄な選手がそろおうDFやGKを除いて計算すると、この《体格差》はより明確なデータとして表れるでしょう。例え

ば、スペインが繰り広げるパスサッカーの根幹を担うMFのチャビ（170センチ）やアンドレス・イニエスタ（170センチ）、ダビッド・シルバ（170センチ）、フアン・マタ（170センチ）、サンテイ・カソルラ（168センチ）らは、いずれも170センチ前後ととても小柄です。

体格面では日本も大きなコンプレックスを抱えています。2006年のワールドカップに出場した日本代表の平均身長は178・6センチ。これを前述のイタリアやブラジルと比較すると、両者の間には約4センチもの《体格差》が存在します。しかし、一方でスペインとの差はわずか0・3センチとごくわずか。スペイン代表と同様、日本代表も中盤に位置するMFのパフォーマンスが大きなカギを握っていますが、現代表では中村俊輔選手と遠藤保仁選手は178センチ、中村憲剛選手は175センチ、長谷部誠選手は179センチ、そして本田圭佑選手は182センチと決して小柄とは言えないばかりか、むしろ単純な身長の比較ではスペイン代表のMFの選手たちを上回っていることがわかります。「スペインと日本の間に体格差はない」、または「スペイン人は日本人よりも小さい」と言っても決して大げさではありません。

ならば、世界の列強に体格で劣る日本は、同じように埋めがたい体格差を抱えながら、それでも2008年にヨーロッパ王者に輝き、2009年には国際Aマッチ35戦無敗という前人未達の偉大な記録を達成、今や「世界最強」と称されるスペインのサッカーにヒントを得ることができはるはずです。日本サッカー界はこれまで、古くは旧西ドイツ、近年ではブラジルやオランダなど身体的な《大国》に教科書としての役割を求めてきました。しかし、私たち日本人と各国の体格差を考慮すれば、身体的特徴が共通するスペインのスタイルにこそ、強い共感を抱かずにはいられません。

彼らは私たちと同じウイークポイントを抱えているにもかかわらず、世界の舞台で結果を残し、しかもその美しいサッカーで世界中のファンを魅了しています。私はスペインでの指導経験からその点を強く認識すると同時に、《スペイン流》を教科書とすることが、必ずや日本サッカーのレベルアップにつながると確信しています。

本書では、スペインでの指導経験から得た知識や経験をベースとし、そこから日本サッカーが強くなるためのヒントを一つずつ丁寧に抽出していきたいと思います。そういった試みを通じて、スペインサッカーの魅力、そして日本サッカーの未来について考える時間を皆さんと共有できれば幸いです。

村松尚登

目次

はじめに 3

第一章

スペインはなぜユーロ2008を制することができたのか

1 …… 体格差を補う戦術と弱点を補う精神構造 18

「無敵艦隊」から「無冠の無敵艦隊」への失墜 18

ドイツ・ワールドカップでの三つの敗因 20

過渡期に示された戦術的変革の予感 23

新たなスタイルの確立を促したFCバルセロナの躍進 26

ユーロ2008で証明された《スペイン流》の有効性 29

ヨーロッパ制覇の要因は「攻撃は最大の防御」!? 33

クラブの躍進はなぜ代表の強化に直結しなかったのか 37

精神構造に変革をもたらした《プレミア化》 39

2 スペイン代表の躍進を促す国内サッカー事情 43

ホームゲームでは攻撃的姿勢を貫いてこそ！ 43

攻撃的なメンタリティーはなぜ定着したのか 45

FCバルセロナが実証した《スペイン流》の実用性 47

スペインで評価される優れた選手、優れた指導者とは 49

ユーロ2008制覇が現場に及ぼす影響力 51

地域性に大きく左右されるメディアの存在 53

サッカー界を盛り上げる深夜の主役 55

今もまだ消えないラウールの残像 57

コラム 「速読」と「脳活性」はサッカーの進化を促す特效薬 60

強く美しいサッカーの源流・FCバルセロナの世界観

1

…… ヨーロッパ王座奪還の舞台裏

66

チャンピオンズリーグ制覇の要因① 先手を打つローテーション制 66

チャンピオンズリーグ制覇の要因② エトーの復活 69

チャンピオンズリーグ制覇の要因③ イニエスタのゴール 70

決勝直前のロッカールームで選手たちが観たビデオ 73

《情熱》の指揮官グアルディオラ① 熱血漢としての側面 76

《情熱》の指揮官グアルディオラ② 分析マニアとしての側面 78

《情熱》の指揮官グアルディオラ③ 感覚派としての側面 80

《冷静》の指揮官ライカールト 82

攻撃サッカーの源流は「ドリームチーム」にあり 85

バルセロナの町に息づく《クライフ主義者》 90

2

育成現場にあるスペインサッカーの秘密

107

スペインの子どもたちはすごい練習メニューをこなしているのか 107

教え子としてのスペイン人① 6歳がタメ口!? 109

教え子としてのスペイン人② 13歳がクーデター!? 111

子どもたちのモチベーションを高める実力主義 114

悔し涙が精神力を強くする 117

「子どもにチーム戦術」は大人げない!? 119

少人数制サッカーのメリット 122

ライバルの存在が《非日常》を《日常》に変える 92

FCバルセロナの哲学「カンテラ」と「マシア」 97

カンテラはアイデンティティの継承者 100

ソシオ制度は《バルサらしさ》を保つ秘訣 104

第三章

リフティングはうまいが、サッカーが下手な日本人

テクニックがあればフィジカルはいらない？ 125

《個》と《組織》どっちが大切!? 127

メッシは「育てる」のではなく「育つ」もの 131

コラム 「将棋」は戦術理解を深める優良教材 135

1 …… 日本のサッカー 138

FCバルセロナのコーチが観たJリーグ 138

「マリーシア」が足りない!? 140

野球とサッカーは本質的に同じ!? 144

《野球的指導》はなぜ機能しなかったのか 148

スペインにあって日本にないシステム論 150

中村俊輔はリーガ・エスパニョーラで活躍できるのか？ 153

優秀なMFを量産する日本の評価基準 157

リフティングはうまいが、サッカーが下手な日本人 159

日本では「誰も見てくれない！」 163

フライントの反復練習がもたらす付加価値 165

パスですか？ ドリブルですか？ 167

どのポジションの選手のことですか？ 169

2 …… サッカーの本質 174

サッカーは「石の彫刻」か、それとも「家の建築」か 174

「石」を「建築」していませんか？ 178

コラム 「ブルース・リー」と「古武術」に共通する《質の高い動き》 181

- 日本の子どもたち① スペインにはない《自主練習》 186
- 日本の子どもたち② スペインにはある《観る習慣》 188
- 日本の子どもたち③ スペインにはある《自己主張》 190
- 日本の子どもたち④ スペインにはある《フィジカルコンタクト》 192
- 指導者が変われば子どもも変わる 194
- 勝負にこだわるメンタリティーを養う 197
- 《美意識》は世界に通用する大きな武器 199
- 公式戦の緊張感を《習慣化》する 202
- 部活動における《自己組織化》 205
- 「文武両道」の本当の意味 210